

ごあいさつ

子どもたちの心がそのまま写し出された、素晴らしい作品に接することのできるこのコンテストの審査を、毎年楽しみにしています。

様々な国から子どもたちの生まれた国の環境や風の匂い、湿度が感じられ、絵を描く楽しさや夢が詰まった力作を見ることを楽しみしていましたが、残念ながら今年は世界中に新型コロナウイルス感染拡大したことにより、第21回コンテストが延期となってしまいました。また来年の審査ができる日を心待ちにしています。

このコンテストに応募してきた作品を見て毎回感じるのですが、子どもたちの絵はどうしてこんなにカラフルで美しいのかということです。彼らの絵には、色彩がこんなにも豊かで多く使用されています。

私は色々な展覧会を観てきましたが、大人の絵は灰色っぽく色彩が奪われており、活力が失われているように思われます。人間同士で紛争の耐えない社会、環境破壊の進む社会、つまり色彩の奪われたモノトーンの大人の心を映し出していると言えます。

子どもたちの目に映り、描く地球には、モノトーンの世界ではなく多くの動植物が存在し、色彩に満ち溢れているこの美しい地球を、いつまでも、そしてこれからも守っていこうという、力強いメッセージが込められています。

カラフルで力強いメッセージが感じられる彼らの作品を是非ご覧になってください。子どもたちと一緒に、地球環境や身近なことについて考えるいい機会になると思います。

審査委員長

画家・東京藝術大学名誉教授

絹谷 幸二